

|   |   |  |
|---|---|--|
| 植 | 物 |  |
| 防 | 疫 |  |
| 講 | 座 |  |

## 虫害編-20

## 野菜のアザミウマ類の発生生態と防除

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 しば 柴 お 尾 まなぶ 学

## はじめに

農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版（日本応用動物昆虫学会，2006）によると，日本で農作物を加害するアザミウマ類は3科44種が知られている。アザミウマ類は，体長が1～2 mmと小さく，新芽や花等の間隙を好むため，低密度のときには発見が困難である。また，広食性のものが多く，吸汁による直接的な被害に加えて，ウイルス病を媒介する。さらに，殺虫剤に対する抵抗性を高度に発達させている種もあるため，殺虫剤のみによる防除が困難である。

前述のように，アザミウマ類は非常に微小であるため，肉眼による種の同定は難しい。また，種によって有効薬剤が異なるため，農業現場ではできるだけ迅速な種の特定と防除対策の実施が求められる。そこで，本稿では既報の「野菜で問題となるアザミウマの見分け方」（柴尾，2011）を改訂し，野菜における主要なアザミウマ類5種の発生生態，見分け方，被害症状，防除対策のポイントを紹介する。

## I 発生生態

1 ミナミキイロアザミウマ *Thrips palmi* Karny

海外からの侵入種で，日本では1978年に宮崎県で初確認された。本州，四国，九州，沖縄に分布している。雌成虫（図-1）は体長1.2～1.4 mm，体色は黄色であり，雄成虫は体長0.9～1.0 mm，体色は淡黄色である。翅の毛が黒く，背中であたはと真ん中に黒い筋があるように見える。卵は新芽や新葉の組織内に1卵ずつ産卵する。成幼虫は葉裏の葉脈沿い，果実のへた周辺部を吸汁する。休眠性はない。露地栽培では5～10月，特に7～8月の発生が多い。低温には弱く，寒地の野外では越冬できない。施設野菜では周年発生し，特に加温して栽培するナス科やウリ科の野菜で多発する。ただし，トマトではほ

とんど発生しない。メロン黄化えそウイルス（MYSV）やスイカ灰白色斑紋ウイルス（WSMoV）を媒介する。多くの殺虫剤に対して抵抗性を発達させている。

2 ネギアザミウマ *Thrips tabaci* Lindeman

在来種で，日本全国に分布している。雌成虫（図-2右）は体長1.1～1.6 mm，体色は夏期高温時には黄色～黄褐色，冬期低温時には黒褐色となる。卵は新芽や新葉の組織内に1卵ずつ産卵する。成幼虫は葉を吸汁する。休眠



図-1 ミナミキイロアザミウマ雌成虫



図-2 ネギアザミウマ雌成虫（右）と雄成虫（左）

Ecology and Control of Thrips on Vegetables in Japan. By Manabu SHIBAO

（キーワード：アザミウマ，野菜，発生生態，見分け方，被害症状，防除対策）